

## 受託研究 小西漆器店所蔵文書の整理・目録作成

期間：2018年7月12日～2019年3月25日

[所員] 関口博巨

### 「小西漆器店所蔵文書の整理、目録作成業務」の目的

関口 博巨

#### [受託の経緯]

本委託事業は、神奈川県日本常民文化研究所の所長であった田上繁（2018年度より客員研究員）が、2017年度に輪島市教育委員会文化課より打診され、内諾していたものである。

実際の事業は2018年度よりスタートし、新たに所員となった関口博巨が担当を引き継いだ。

#### [事業の目的と内容]

本事業は、同市河井町の小西庄五郎漆器店が所蔵する古文書を整理し、目録を作成することを目的としている。

当面の具体的な作業としては、ポリ袋や段ボール箱に収納されていた古文書群を、原則として一点ごとに中性紙の古文書整理封筒に詰め、番号を付与し、中性紙の古文書整理容器に収納しなおす。そのうえで、全文書をデジタルデータ化し、これをもとに古文書目録を作成しようとするものである。

#### [期待される成果]

輪島塗を名産とする輪島市は、「漆の里」として全国的によく知られている。

小西庄五郎漆器店は、享保8（1723）年創業とされる輪島塗の専門店であり、当地を代表する漆器店のひとつである。同店は、京坂方面に行商して「椀講」と呼ばれる年賦販売の講組織をつくり、多くの顧客を得たといわれている（『図説輪島の歴史』2003年、輪島市ほか）。こうした歴史を考えると、同店が輪島塗の全国普及に果たした役割を、正當に評価する必要があるだろう。

輪島市はこれまで何度も火災や津波の被害を受けてきた。ことに河井町に伝来する古文書は必ずしも多いとはいえない。その中であって、小西漆器店が所蔵する古文書は、同店にとってはもとより、「漆の里」を称する輪島市にとっても、きわめて貴重な史料群ということができる。

小西漆器店所蔵文書の整理作業ならびに目録作成は、その貴重な古文書の散逸を防ぐとともに、



写真1 小西庄五郎漆器店

輪島塗の歴史はもとより、近世から近現代にいたる漆器店経営、職人の実態、町の暮らしなど、多様な歴史を解明していくための足掛かりとなることだろう。

## 今年度の調査・整理の報告

### 【第1回調査】

日程：2018年12月15日（土）～  
12月17日（月）

調査先：石川県輪島市河井町  
小西庄五郎漆器店

調査者：関口博巨（所員）、田上繁（客員研究員）、東出紘明・山室陸（歴史民俗資料学研究科博士後期課程）、日座久美子（歴史民俗資料学研究科博士前期課程）

### 〔これまでの整理状況の把握〕

以前、同文書は大きく三つのかたまりに分けられ、ビニール袋などにそれぞれ収納されていたという。一昨年度、予備調査を行った田上らは、各収納袋にA・B・C・Dの記号を付した。

### 〔小西漆器店での調査内容〕

12月15日午前中、輪島市文化課の山下敦司氏と、今回の委託研究の内容や目標についての打ち合わせを行った（輪島市文化会館にて）。

同日午後、輪島市河井町の朝市通りに面した小西漆器店を訪問、小西美紀子さんにご挨拶。予備調査における整理状況を確認した（上述）。これを踏まえ、すべての文書を中性紙封筒に詰め、以下の通り記号・番号を付与し、写真撮影に取り掛かった。

A-1～74

B-1～1370

C-1～34

D-1～18

16～17日は、2班に分かれて写真撮影を行った。A群の撮影は完了。B群はB-1～4まで撮影できた。



写真2 クロメ大鉢（享和元〈1801〉年）小西漆器店所蔵



写真3 文化課・山下氏と打ち合わせ（輪島市文化会館／2018年12月）



写真4 所蔵文書の整理状況を確認（2018年12月）



写真5 所蔵文書の封筒詰めと番号付け（2018年12月）

### 【第2回調査】

日程：2019年3月16日（土）～3月18日（月）

調査先：石川県輪島市河井町 小西庄五郎漆器店ほか

調査者：関口博巨、東出紘明、山室陸、日座久美子

[巡見（周辺状況の把握）]

3月16日、輪島市文化課の山下敦司氏に案内していただき、町野の時国健太郎家、石川県輪島

漆芸美術館、「間垣の里」として知られる大沢を巡見した。時国家は小西家と濃密な縁戚関係を有した旧家である。大沢には、漆器の粗型の削り出しをしていた南家の旧宅が残されている。

[小西漆器店での調査内容]

3月17日、小西美紀子さんにご挨拶。時国家との縁戚関係などについてお話をうかがう。新出の近代文書2点（分類記号E）と古書籍約120点（分類記号F）が見つかる。また、明治時代以降の道具類を拝見した（「小西会社」のネーム入り行李、革製の行商用靴、携帯の秤、「日勤簿」墨書入り木箱、パナマ万博出品時の銅メダル、大正・昭和初期の膳椀、その他）。

同日、E群とF群を封筒詰めし、保存箱に収納した。翌18日の午後まで、前回の続きのB群の撮影を行った。B群の前半は、破損した横帳が多く、撮影は容易ではなかった。今回撮影できたのはB-5～9。



写真6 小西家の縁戚・時国健太郎家の見学（2019年3月）



写真7 石川県輪島漆芸美術館の見学（2019年3月）

[大学での整理作業]

撮影した写真をもとに、A群（A-1～74）の目録取り作業を行った。目録は輪島市に提出した報告書の末尾に付した。

[今後の課題]

上述の通り、小西庄五郎漆器店所蔵文書の整理ならびに目録作成業務は、緒に就いたばかりである。だが、残念なことに、2019年度の委託研究費は計上されていない。事業の継続は、2020年度以降を期したい。



写真8 間垣の里・大沢 かつて粗型を製作していた職人の旧宅（2019年3月）



写真9 時国家との関係も記録された「永代過去帖」表紙

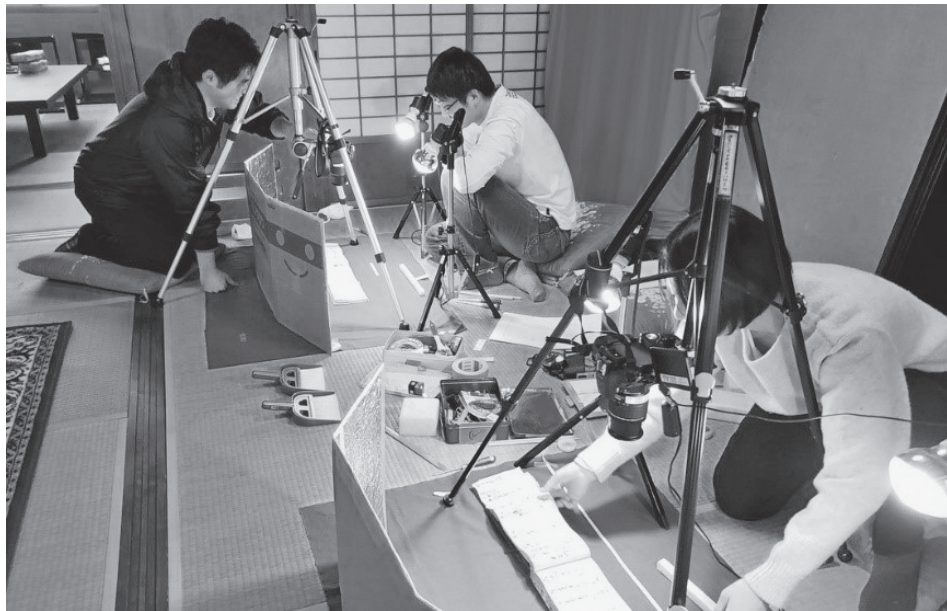


写真10 延々と続く古文書の撮影（2019年3月）

■ 2018年度の活動

- 文書整理 2018年12月15日～17日 石川県輪島市河井町 小西庄五郎漆器店 関口博巨・田上繁、東出紘明・日座久美子・山室陸（院生）
- 文書整理 2019年3月16日～18日 石川県輪島市河井町 小西庄五郎漆器店ほか 関口博巨、東出紘明・日座久美子・山室陸（院生）